

神楽名

# と した 戸下神楽

伝承地

あらだに とした  
荒谷戸下地区

もろ つかそん えしる  
諸塚村大字家代

指定等

県指定 無形民俗文化財

伝承団体

戸下神楽保存会

代 表 田村正一  
事 務 局 綴川陽夫



岩戸（下）

## ◆ 神楽の概要・由来・その他

戸下神楽が保存継承されている戸下地区は、諸塚村の南東部に位置する世帯数9戸の集落で、夜神楽は荒谷公民館区全戸の協力の下、奉納される。戸下集落の鎮守である白鳥神社しらとりじんじやには、戸下神楽の主祭神である日本武尊命やまとたけるのみこと（権現様ごんげんさま）が祀られており、神楽は白鳥神社の春祭りにて奉納される。

戸下多目的集会所を神楽宿とし、神々かんじょうを勧請する御神屋みこうやは屋外に張り出す形ゆかだかで床高に設えられる。毎年奉納される「普通神楽」と、集落の大願成就の年などに奉納される「大神楽おおかぐら」があり、その番付は五十番にも及ぶ。大神楽でしか行われぬ山の神と神主との問答である「山守やまもり」は、全国的にも類例のない番付であるといわれる。八百万の神を御神屋に招き降ろす神楽「御大神おだいじん」は、上・中・下に分かれており、中の段に入ると「脇宿わきやど」と呼ばれる、神楽宿に隣接する民家が開かれ、集落の女性たちによるふるまい料理で夜通しのもてなしが始まる。この「御大神」が終わると神楽せり歌を歌うことが許され、女性も神楽宿に上がることができる。

## ◆ 芸能の機会・場所

- 普通神楽... 1月最後の土・日曜日
- 大神楽... 2月の第2土・日曜日（集落の大願成就の年などに奉納される）
- 荒谷公民館祭り... 11月第1土曜日 三番（地割+面舞を二番）奉納

## ◆ 演目一覧

祭典・舞い入れ	御神屋神楽・神事	おがみ 御拝	御神屋ほめ	地割（上）	地割（下）
もり あたご 森・愛宕	きじん 鬼神	おだいじん 御大神（上）	御大神（中）	御大神（下）	ごんげんさま 権現様
むらかた 村方	はちまん 八幡	しょうご 将権（上）	将権（中）	将権（下）	てんじん 天神
すみよし 住吉	まいこうじん 舞荒神（上）	さんぼうこうじん 三宝荒神	舞荒神（下）	いなり 稲荷	しんじわり 新地割（上）
新地割（下）	おきえ 沖江（上）	沖江（下）	かんずい 神随（上）	神随（下）	ふあ 振り上げ
こずてん 牛頭天（上）	牛頭天（下）	いせ 伊勢	いせのえんぎ 伊勢延儀	いわと 岩戸（上）	しばと 柴取り
とと 戸取り	岩戸（下）	うきわとり 浮輪取	火の神	しめぐち 注連口	いなり 稲荷

※平成30年（2018）1月に奉納された演目に基づく

## ❖ 演目の特徴

白鳥神社での神事が終わると、先祓いの<sup>ほうきも</sup>箒持ちを先頭に「舞い入れ」が行われ、記紀神話の神々に加え土地の神々が一同に<sup>かぐらやど</sup>神楽宿へ向かう。序盤に<sup>すめん ひためん と もの み こう や</sup>素面（直面）の採り物舞で御神屋が清められると、「<sup>めんつ</sup>面連れ」が<sup>きじん</sup>現れ「鬼神」をはじめとした神々を呼び出す。夜明け近く、天岩戸にお隠れになった<sup>あまてらすおおかみ</sup>天照大神を、再びこの世に導き出す神楽「<sup>いわと</sup>岩戸」は、記紀神話では手力男命が岩戸を開くが、戸下神楽では<sup>かすが おおかみ</sup>春日大神がつとめる。「岩戸(上)」は岩戸を探る様子が表現されており、「岩戸(下)」では春日大神が<sup>いん</sup>両手で印を結びながら舞い、岩戸が開き天照大神の手を取り引き出すとほぼ同時刻に日が昇る（大神楽の年は時間が変わる）。

戸下神楽は、地形的に隣接する<sup>みなみがわ</sup>南川神楽とはほぼ同根といわれる。言い句、<sup>い く ね ぎうた しやうぎやう</sup>禰宜歌、唱経が豊富に伝えられていることが特色であり、近世以降の神道化の波を受けることなく、<sup>しんぶつこんこう</sup>神仏混淆の様相を色濃く残す。

## ❖ その他の特徴

- 面... <sup>さる たひこ</sup>鬼神(猿田彦)、<sup>しらとりごんげん</sup>白鳥権現、八幡様、<sup>あめのおづめのみこと</sup>天神様、地主荒神、一荒神、二荒神、三荒神、春日大神、柴荒神、戸取明神、大神宮、浮輪取(天鈿女命)、<sup>いん</sup>稲荷様、獅子(猪) 等
- 楽... 太鼓、笛
- 装束... 白衣、白袴、<sup>えぼし</sup>麻の舞衣、襷、毛笠、烏帽子、冠 等（面様方の装束は、更紗や型染めの布で江戸後期から明治時代初期にかけて製作されたものが多い）
- 採り物... <sup>めんぼう</sup>鈴、扇、御幣、面棒、刀、弓、矢、櫛、襷帯、膳 等
- 文書... 「御神屋の唱経」（平成14年1月）、「荒神と神主言句」（昭和50年1月）  
「戸下神楽」（平成27年(2015)7月 戸下神楽保存会発行） 等

## ❖ 伝承の現状・課題

平成31年現在、保存会は30名在籍。集落の子ども4名で、子どもの演目「<sup>かんずい</sup>神随(上)」を舞う。地域の小学校に赴任してきた先生へも神楽指導を行い、転勤しても祭りの日には戻ってくれる方もあり、神楽の伝承に繋がっている。林業に携わる、20代、30代の若者もおり、村の産業の発展が人材の確保につながっている。平成27年(2015)に鹿児島県で開催された「第30回国民文化祭」に参加するなど、神楽の保存継承に努めている。



舞い入れ



三宝荒神



神随(上)